

コレクション展 光の「うつわ」



展覧会名 コレクション展 光の「うつわ」

会 期 2024年12月7日(土)～2025年6月1日(日)

会 場 富山市ガラス美術館4階 展示室4、透ける収蔵庫

主 催 富山市ガラス美術館

開場時間 9:30 - 18:00
(金・土曜日は20:00まで、1/2 - 3は17:00まで、入場は閉場の30分前まで)

閉 場 日 第1・3水曜日、年末年始(12/29 - 1/1)、1/8

観 覧 料 一般、大学生200円(170円)、高校生以下は無料
※()内は20名以上の団体料金
※本展観覧券でグラス・アート・ガーデン(6F)もご覧いただけます。
※企画展の観覧券をお持ちの方は、本展およびグラス・アート・ガーデン(6F)も
ご覧いただけます

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

展覧会について

ガラスは、光を透過させたり、内部にとどめたり、屈折あるいは反射したりできる素材です。これこそ、陶磁や染織、木竹といった他の工芸素材にはないガラスならではの特徴です。ガラスのこうした特異な性質と対話を交わしながら、現代の作家たちは、さまざまな表現の可能性を探っています。

ガラスのプリズムとスペクトルの光学の原理を作品に導入する作家もいれば、光に照らされた自然の風景を作品化する作家、あるいは造形のなかに光を取り込み、ともに詩的に変換することで作品へと結実させている作家もいます。そこでは、ガラスは、いわば光とそれにつわる世界観を増幅させる一種の装置としての役割を果たしているともいえましょう。いずれの作品においてもガラスは、光を受け止め、その中に光を湛（た）える一種の「入れ物（容器）」として不可欠な媒体でありながら、「うつわ」形にとどまらない幅広い表現を可能とし、現代において注目すべき作品を生み出しています。

本展では、現代の作家たちが、光とガラスの関係を作品においてどのように切り結んでいるのか、当館のコレクションから厳選した作品を通して探求します。

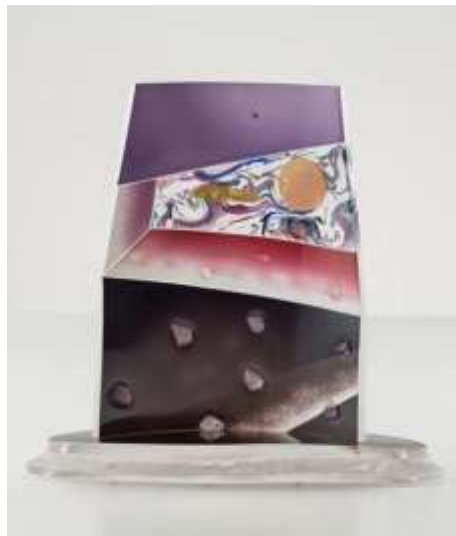
展示内容

1 光を湛^たえる

光を受けるとガラスの見え方も驚くほど変化します。ガラスに対する光の効果を、作家も積極的に作品に取り入れています。光の受容体としてのイメージを「うつわ」形に象徴させたり、また光のイメージを自然界の具象的なモチーフへと置き換えて展開させたり、光へのアプローチは作家によって多岐にわたっています。光の受容体としてのガラス、または光に由来するモチーフを主題としたガラス作品の多様な展開をご覧ください。



1. 松島 巖《光を溜める》1999年
撮影：末正真礼生
富山市ガラス美術館蔵



2. 野田由美子《Moon Light - 月の光 -》
1999年、撮影：室澤敏晴
富山市ガラス美術館蔵

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

2 光を分解・再構築する

透明な幾何学形態のガラスは、白色光をさまざまな波長の光に分解し、赤、青、黄色などの虹色の光帯を現出させます。このような特性を活かし、チェコ出身のガラス作家、リベンスキーとブリフトヴァーは、プリズムとしてのガラスの効果を起点としながら、最終的にはガラス内部に光が広がる作品へと作風を進化させました。ガラス内部に無限の空間が広がるような深い内省的な連作を生み出し、20世紀のガラス表現のひとつの頂点を築きました。



3. リベンスキー&ブリフトヴァー《スペクトル》1996年
撮影：斎城卓、富山市ガラス美術館蔵



4. パヴェル・トルンカ《スペクトルシリーズより》
2006年、撮影：室澤敏晴、富山市ガラス美術館蔵

3 光をとどめる

光を受けとめ、内部に留める構造を有するものとして、ガラスと建築は似ているかもしれません。ここでは、壁や階段といった建築的な構造物や建築の外観をモチーフとしている作品を取り上げます。これらの作品においては、ガラスの透明性により、作品の内と外を同時に意識下に置くことができます。これにより、作品の内部空間に深く入り込み、その中に身を置いたかのような想像をすることもできます。このような鑑賞体験を通じて、私たちは遠い記憶を呼び覚ましたり、幻想的な空間を訪れたかのような感覚を得たりすることでしょう。



5. 扇田克也《HOUSE》2013年
富山市ガラス美術館蔵
撮影：末正真礼生



6. 吉本由美子《空中の楼閣》1997年
富山市ガラス美術館蔵
撮影：末正真礼生

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号
Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310
Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

主な出品作品

スタニスラフ・リベンスキー&ヤロスラヴァ・ブリフトヴァー 《ピラミッドの緑の眼》1993-95年、吉本由美子 《空中の楼閣》1997年、塚田美登里 《Route》2002年、張慶南 《壁・海の柱》2003年、パヴェル・トルンカ 《「スペクトル」シリーズより》2006年、扇田克也 《海に降る雨》2011年ほか すべて富山市ガラス美術館蔵（敬称略、制作年順）

関連プログラム

ギャラリートーク

日 時：2024年12月21日（土）、2025年1月19日（日）、2月23日（日）、3月15日（土）、
4月20日（日）、5月17日（土）

各回14:00より開催

会 場：富山市ガラス美術館

参加無料 申し込み不要

- 事前申し込みは不要です。
- 展示室への入場には、本展観覧券が必要です。
- 関連プログラムの詳細は、美術館ウェブサイトやSNSなどでお知らせします。
- プログラムは都合により中止、または変更となる場合があります。
- 最新の情報は美術館ウェブサイトにてご確認ください。

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

見どころ

見どころ1：富山市ガラス美術館のコレクションを代表する「あの」大作が展示されます！

チェコの現代ガラス・アートの巨匠、リベンスキー氏とブリフトヴァー氏による《ピラミッドの緑の眼》(1993-95)を5年ぶりに展示します。本作は、ガラス鑄造(ちゅうぞう)による作品のなかでもとくに巨大な幅約3メートル、高さ約2メートルの大作です。同作家によるこれだけの大作は、富山市ガラス美術館のほかは、アメリカのコーニング・ガラス美術館が所蔵するのみです。緑色のガラスの内部に光がとどまる神秘的な作品をぜひ間近でご覧ください。



7. スタニスラフ・リベンスキー&ヤロスラヴァ・ブリフトヴァー 《ピラミッドの緑の眼》
1993-95年、富山市ガラス美術館蔵
撮影：斎城卓

見どころ2：富山在住のガラス作家、塚田美登里氏による作品《Route》(2002)を初展示！

現在、活躍中の富山在住のガラス作家・塚田美登里氏の初期作品《Route》を初めて展示します。1998年から4年間、富山ガラス造形研究所(富山市古沢)で学んだ塚田氏は、本作を「現代ガラス大賞展・富山2002」で発表し、奨励賞を受賞しました。現在は、ガラスと金属箔を重ねてガラスを透過する光が木漏れ日のように輝く作品を制作している塚田氏。本作は、重厚で透明感のある点に特徴がありますが、現在の制作につながる「物事の奥行き」についての塚田氏の関心がすでに表れています。作家の初期活動を語る作品にご注目ください。



8. 塚田美登里《Route》2002年
富山市ガラス美術館蔵、撮影：田中祐樹

お問い合わせ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

美術館概要



9



10

富山市ガラス美術館は、「ガラスの街とやま」を目指したまちづくりの一環として、2015年8月に開館しました。本美術館は富山市立図書館本館などが入居する複合施設「TOYAMA キラリ」内に整備され、富山市の中心市街地に位置することから、文化芸術の拠点としてだけでなく、まちなかの新たな魅力創出の役割を担ってきました。

世界的な建築家の隈研吾氏が設計を手掛けた建物は、御影石、ガラス、アルミの異なる素材を組み合わせ、表情豊かな立山連峰を彷彿とさせる外観となっています。また、内部は富山県産材のルーバー（羽板）を活用した開放的な空間となっています。

常設展として、アメリカの現代ガラスの巨匠、デイル・チフリー氏によるインスタレーション作品を展示する6階「ガラス・アート・ガーデン」のほか、所蔵作品を紹介する4階「コレクション展」や2階から4階の展示室壁面などに富山ゆかりの作家が制作した作品を展示する「ガラス・アート・パサージュ」があります。また企画展では1950年代以降のガラス・アートを中心に、様々な美術表現を紹介しています。

交通アクセス

[富山駅より] ○徒歩 20 分 ○市内電車南富山駅前行に乗り、「西町（にしちょう）」下車、徒歩 1 分
○市内電車環状線に乗り、「グランドプラザ前」下車、徒歩 2 分（富山駅から「西町」「グランドプラザ前」まで約 10 分）

[富山空港より] ○地鉄バス（富山空港線）「総曲輪（そうがわ）」下車、徒歩 4 分

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

美術館公式 SNS アカウント



Instagram

アカウント名
toyamaglassartmuseum



Facebook

アカウント名
toyamaglassartmuseum



Youtube

チャンネル名
ToyamaGlassArtMuseum 富山市ガラス美術館

報道関係のお問合せ先

富山市ガラス美術館

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310 E-mail bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp (代表)

広報担当：渡辺、小谷 展覧会担当：北村

広報用画像の貸出しについて

p.2～3、5～6 の画像 1～10 を広報用に貸出します。ご希望の方は、p.7 の画像貸出し申請書の使用条件をご確認の上、メールまたは Fax にて上記の美術館広報担当へ申請書をお送りください。

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町 5 番 1 号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

年 月 日

(宛先) 富山市ガラス美術館長

担当者： _____

Tel： _____ Fax： _____

E-mail： _____

住所： _____

団体名： _____

富山市ガラス美術館 画像貸出し申請書

次のとおり、掲載用素材として「コレクション展 光の「うつわ」」の画像を申し込みます。

1. 掲載（放映）媒体名： _____

2. 媒体種別：TV 新聞 雑誌 フリーペーパー 電子書籍 WEB サイト 携帯媒体
その他（ _____ ）

3. 掲載の趣旨
別紙のとおり（媒体資料を添付してください）

4. 掲載（放映）日時： _____

5. ご希望の画像番号： _____

- 画像は原則、全図でご使用ください。トリミング、部分使用、縦横比の変更、文字のせはご遠慮ください。
- 画像掲出には別途指定するキャプションを必ず入れてください。
- 展覧会広報のみにご使用ください。他の目的でのご使用は固くお断りいたします。
- 商品のPR等の商業利用に関しては画像の提供は出来ません。
- 画像の2次使用はご遠慮ください。
※画像が使用できる期間は展覧会期間内のみとなります。
※同一記事の再掲載や再放送等については再申請が必要となります。
- 校正ゲラの段階で情報の確認をさせてください。
- 記事が掲載された場合は掲載見本（DVD、掲載紙、掲載誌等）を美術館広報担当へご寄贈ください。

申請書送付先：富山市ガラス美術館 広報担当 E-mail: bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Fax：076-461-3310

お問合せ

富山市ガラス美術館 〒930-0062 富山県富山市西町5番1号

Tel 076-461-3100 Fax 076-461-3310

Email bijutsukan-01@city.toyama.lg.jp Web toyama-glass-art-museum.jp

